

既調査・収集文庫一覧の公開について

国文学研究資料館は、1972年の創設以来、国内および海外の諸文庫・諸機関等に伝存されてきた国文学資料の調査と収集を主な任務として活動してきました。2004年には法人化され、大学共同利用機関法人として、国立歴史民俗博物館（歴博）以下の4機関とともに、人間文化研究機構の一翼を担う機関となり（2009年10月には国立国語研究所も人間文化研究機構に加わりました）、共同研究を主とする研究機関に衣替えがなされ、内部組織も改変されました。しかし、調査と収集に関しては、文献資料部の時代と同様、法人化後においても、当館の主要な任務たる位置付けに変わりはありません。今日までこの創設の趣旨を遂行し得ていることは、ひとえに全国各地で精力的に活動して下さってきた調査員の方々のご尽力によるものであり、ご協力頂いてきた皆様には心より御礼を申し上げます。

本年2009年度で法人第一期の6年間が終了し、次年度からは第二期中期目標・中期計画期間となりますが、この機に、当事業部ではこれまで調査・収集をさせて頂いた諸文庫・諸機関等のリストを公開することにしました。以下の凡例の通り、制約や限界もありますが、広くご覧頂き、ご利用に供して頂ければ幸いです。

なお、本事業は引き続き当館の主要業務として着実に推進して参りますので、よろしくご支援とご協力をお願い申し上げます。

調査収集事業部長 寺島恒世

凡例

○以下は、当館がこれまで調査及びマイクロ収集（デジタル収集含む）を行ってきた文庫・機関等の一覧リストです。

○調査のみを行った個人、寺社は除いています（公共の図書館、文庫等は掲載）。

○海外は、収集を行った機関のみ掲載しています。

○所蔵者名、所在地の名称は調査等を行った当時の名称ですので、現在は変わっている可能性があります。また、資料の所在変遷等についても更新していません。

○調査、収集の状況については記載していません。

○従って、このリストに基づく調査・収集状況、所蔵者についての問い合わせ等にはお答えできないことが多いと思われませんが、ご了承ください。

○調査に関しては、日本古典資料調査データベースによって調査カードの検索ができます。ただし、全てではありません。

○収集した資料の書誌データに関しては、整理が終わり次第、マイクロ／デジタル資料・和古書目録（データベース）に掲載していますので、そちらを検索してください。